

H 1 8 . 1 2 . 8 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日 時：平成18年12月8日(金) 15時00分～17時00分

議事概要：

表 H 1 8 . 1 2 . 8 設楽ダム猛禽類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1. 設楽ダム環境影響評価準備書について	・猛禽類検討会での指摘事項と準備書への対応について説明した。	・評価書の作成が終わると、一連の環境影響評価手続きが終了することになる。今後、猛禽類検討会についてはどうするつもりなのか。	・事務局：今後も引き続き、工事中及び工事後についても猛禽類検討会で環境保全措置の具体的な内容及びモニタリングについて助言などをお願いしたい。
		・国土交通省が持っているクマタカのデータは非常に有益なものだと思うが、公表する予定はないのか。	・事務局：国土交通省が持っているデータを収集し、公表を目指してとりまとめている。
2. 平成18年繁殖シーズンの調査結果について	・平成18年繁殖シーズンの調査結果(クマタカ、オオタカ、ハチクマ、サシバ)について報告した。	・オオタカとハチクマについては、出現が多い地域がある。この地域は生息地が対象事業実施の影響を受ける可能性があるため、今後も引き続き注意して観察を続けてほしい。	・事務局：調査を行う際には、クマタカ以外の猛禽類についてもクマタカ同様に観察を続ける。また、平成19年度については、オオタカ・サシバ・ハチクマを観察するための観察地点をクマタカ調査とは別に設定し、詳細な調査を行う予定である。
		・サシバについては、今のところ対象事業の影響を大きく受ける地域には生息していないと考えられる。	・事務局：特になし
3. 平成19年繁殖シーズンの調査計画(案)について	・平成19年繁殖シーズンの調査計画(案)について説明した。	・平成19年の調査計画にCCDカメラの設置案が3案示されている。調査の効率性、有効性を考えると第2案(ケーブルを延長しカメラを追加設置する案)が適切である。	・事務局：第2案をベースにし、詳細な部分をこれから決める。機材の種類、設置方法は再度検討する。設置時期は平成19年8～10月を想定している。
		・定点調査の精度が概ね問題ないことを検証するために、定点調査の精度検証を行う予定になっている。この際、レーザー測遠機の代わりに、セオドライトを利用して実施することで特に問題はない。	・事務局：セオドライトを用いて調査を実施する。
		・CCDによる観察や解析は重要であるが、目視観察も重要であることに代わりはない。引き続き1つでも2つでも狩りに関わる行動の観察記録を積み重ねてほしい。	・事務局：目視調査についても引き続き実施する。
		・オオタカの生息環境解析については、一般的に認知された解析手法を用いて解析すべきである。	・事務局：オオタカの営巣環境解析や生息環境については、いくつかの先行研究があるが、いずれも平野部の研究であり、設楽ダムの調査地域での適応は難しい可能性がある。